

令和5年度

# SYLLABUS

～ Approach to Studying ～

2年 福祉科



香川県立高松南高等学校

## はじめに

皆さんは、マンガを読みますか？テレビやパソコンでゲームをしますか？

マンガやゲームが生活に深く根付いている今、マンガを読んだことやゲームをしたことのない人を捜すのは至難の業でしょう。中には、自分の時間のほとんどを、マンガやゲームに費やす人もいたりして…。

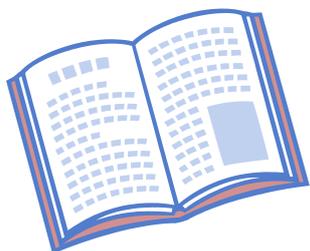
ところで、なぜ、マンガを読んだりゲームをしたりするのか考えたことがありますか。何人かの生徒に聞いてみると、「面白いから」とか「ストレス解消」という答えが返ってきました。しかし「なぜ、そんなことを聞くのか」と、逆に質問されてしまいました。楽しいことに対して「なぜそれをするのか」と聞くことが、そもそも不思議だったようです。

では、勉強についてはどうでしょう。「なぜ勉強しなければいけないのか」、「こんな勉強をして何になるのか」。そう思ったことはありませんか。この質問にズバリ答えるのはとても難しいことです。考古学者の平賀・キートン・太一氏は、閉鎖されるパリのシモンズ社会人学校の冬季セミナー最後の講義で、「人間は一生学び続けるべきです。人間には好奇心、知る喜びがある。肩書きや、出世して大臣になるために学ぶのではない。それが人間の使命だからです。」と本質的理由を受講生に語っています。少し考えてみても、テストに出る、成績が上がるとお小遣いも上がるなどの外発的理由や、将来の仕事に役立つ、分かれると充実感があるなどの内発的理由まで様々でしょう。

シラバス (Syllabus) の語源はギリシャ語の「Sittuba」で、元々は羊皮紙製の書籍ラベルのこと。明治時代には「教授要目」などと訳されていたようです。ページをめくっていただければお分かりのように、本校のシラバスは、科目の概要や学習目標、授業計画、学習方法など、履修や選択するために必要な情報をコンパクトにまとめています。

高等学校での学習の基本は「授業」。もちろん家庭学習も大切ですが、毎日の「授業」をないがしろにして、家庭学習は成立しません。

折に触れ、シラバスのページをめくってください。きっと、授業を通して何をどう学ぶのかを考える手助けになるはずです。



参考文献：『開かれた学びへの出発』市川伸一（金子書房）

『MASTER キートン』勝鹿北星（小学館）

## 福祉科

### ◎科の目標

- ・福祉の学習や介護の実践を通して「福祉マインド」を育み、地域の社会福祉や介護の核となる介護福祉士の養成を目指します。
- ・「社会福祉基礎」「介護福祉基礎」「生活支援技術（医療的ケアを含む）」「介護実習」「介護総合演習」「こころとからだの理解」「福祉情報」等を学習します。

### ◎資格取得、進路

- ・介護福祉士国家試験受験資格、赤十字救急法救急員修了証
- ・大学・短大・専門学校への進学、介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設への就職

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	現代の国語	言語文化	公共	数学Ⅰ	科学と人間生活	体育	芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	社会福祉基礎	介護福祉基礎	コミュニケーション技術	生活支援技術	介護総合演習	介護実習	こころとからだの理解	LHR																
2年	文学国語	地理総合	数学Ⅰ	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	家庭基礎	社会福祉基礎	介護福祉基礎	コミュニケーション技術	生活支援技術	介護過程	介護総合演習	介護実習	こころとからだの理解	福祉情報	LHR															
3年	文学国語	歴史総合	生物基礎	体育	英語コミュニケーションⅡ	社会福祉基礎	介護福祉基礎	生活支援技術	介護過程	介護総合演習	介護実習	こころとからだの理解	LHR																			

目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長の プロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他の考え（作品の主題や筆者の考え）と自分の考えを比較検討し、新しい考えや発想を生み出せる。(読む)</li> <li>○作品の背景や他の作品などとの関係を踏まえて、作品を解釈したり、評価したりできる。(読む)</li> <li>○読み手が理解しやすく、場に応じた表現ができる。(書く)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉の特徴や使い方、言語文化に強い興味や関心を持ち、理解しようとする強い意欲がある。</li> <li>○自ら言葉を使って他者に関わろうという強い意欲がある。</li> </ul>
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作品そのものの内容を解釈したり、評価したりできる。(読む)</li> <li>○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。(書く)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持ち、理解しようとする意欲がある。</li> <li>○言葉を使って他者に関わろうという意欲がある。</li> </ul>
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師等による解説や助力を頼りに、作品そのものの内容のある程度解釈したり、評価したりできる。(読む)</li> <li>○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。(書く)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持つようとし、理解しようとしている。</li> <li>○言葉を使って他者に関わろうとしている。</li> </ul>

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「文学国語」（東京書籍）

副教材 「学習課題ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）  
「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	●随筆「光の窓」等 ●小説「山月記」等
2 学期	●詩歌：詩「永訣の朝」等 ●小説「こころ」等
3 学期	●詩歌：短歌「硝子の駒・・・」等 ●小説「あの朝」等

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・ 「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・ 板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・ 提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・ 読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート ・感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">成長のプロセス</p>	<p>世界の地域的特徴を、自らの生活や日本と比較することができる。</p>		
	<p>観点別：A</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">シ ャ ン プ</p> <p>評定：5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の地域的特徴を自らの生活や、日本と比較したり、結びつけながら深く理解している。</li> <li>○主題図やグラフ・表などを自らの力で正確に読み取ることができる。</li> <li>○自らの力で効果的に主題図やグラフ・表を表現できる。</li> <li>○学びを深めるために必要な情報に気づき、それを自ら収取できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○論理的に討論や議論をすることができる。</li> <li>○主題図・グラフなどを用いて効果的に自分の考えを表現できる。</li> <li>○多面的・多角的に考察したり、評価したり、自分の考えを持つことができる。</li> <li>○自分の考えを文章で論理的かつ的確に相手に伝えることができる。</li> </ul>
<p>世界の地域的特徴を、日本と比較することができる。</p>			
<p>観点別：B</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">ス テ ッ プ</p> <p>評定：4</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の地域的特徴を日本と結びつけながら理解している。</li> <li>○主題図やグラフ・表などを自らの力で読み取ることができる。</li> <li>○自らの力で主題図やグラフ・表を表現できる。</li> <li>○学びを深めるためには新しい情報が必要なことに気づくことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自らの言葉で討論や議論をすることができる。</li> <li>○主題図やグラフ・表を用いて自分の考えを表現できる。</li> <li>○教師の必要最小限の助力によって多面的・多角的に考察したり、評価したり、自分なりの考えを持つことができる。</li> <li>○自分の考えを文章で相手に伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身の回りの生活と関連付けて学ぼうとしている。</li> <li>○学び方や取り組み方を改善し、学び続けようとする。</li> <li>○自分の進路目標との関わりを意識しながら学習に取り組むことができる。</li> <li>○学習態度が主体的・対話的で、学び続けようとしている。</li> </ul>

観点別：C <b>ホ ツ プ</b> 評定：3	世界と自らの生活や日本とのつながりを理解することができる。		
	○世界の地域的特徴について基礎的・基本的な内容を理解している。 ○教師等の助言があれば主題図やグラフ・表などに含まれている地理的情報を読み取ることができる。 ○教師等の助言があれば主題図やグラフ・表を表現できる。 ○教師等の助言があれば、学びをさらに深めるためには、新しい情報が必要なことに気づくことができる。	○教師等の助言があれば、討論や議論をすることができる。 ○教師等による個別の助言があれば、主題図やグラフ・表を用いて自分の考えを表現できる。 ○教師等による個別の助言があれば、深く考察をしたり、自分なりの考えを持つことができる。 ○教師等の助言があれば文章で自分の考えを相手に伝えることができる。	○基礎的・基本的な地理的知識や技術、考察力を身につけようとしている。 ○学習内容をさらに理解するために学び方を改善しようとする。 ○教師の助言があれば進路実現に向け、学習に取り組むことができる。 ○学習態度が主体的で、提出物などを期日までに自分の力でやりきることができる。

### ■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新地理総合」（帝国書院） 「新詳高等地図」（帝国書院）  
 副教材 「新地理総合ノート」（帝国書院）

### ■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	<b>第1部 地図でとらえる現代世界</b> <b>第1章 地図と地理情報システム</b> 1節 地図上の位置と時差 2節 地図の役割と種類 <b>第2章 結び付きを深める現代世界</b> 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界 <b>第2部 国際理解と国際協力</b> <b>第1章 生活文化の多様性</b> 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の言語・宗教と人々の生活
2 学期	4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活 <b>第2章 地球的課題と国際協力</b> 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食料問題
3 学期	6節 都市・居住問題 <b>第3部 持続可能な地域づくりと私たち</b> <b>第1章 自然環境と防災</b> 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え <b>第2章 生活圏の調査と地域の展望</b> 1節 生活圏の調査と地域の展望

### ■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切に、板書された事柄だけでなく、先生の補足説明も書く習慣を身に付けるようにする。
- ・主題図の作成などの作業には丁寧に取り組むようにする。
- ・普段から地図帳に目を通し、的確な世界地図を思い描けるようにしておく。
- ・普段から新聞等に目を通し、国際社会の動向を的確に掴んでおく。
- ・地図やグラフ、表などの資料から論理的に考察する習慣を身に付けるようにする。
- ・自ら地理的な課題を見つけ、自分の考えをまとめ、発表できるようにしておく。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・レポート</li> <li>・授業における発表や成果物</li> <li>・ノート</li> <li>・長期休業中の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート</li> <li>・振り返りシート、感想</li> <li>・レポート</li> <li>・長期休業中の課題</li> </ul>
重みづけ	<b>1</b>	:	<b>1</b>
	3つの資質・能力をバランス良く身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公式・法則、用語などを理解し、導くことができる。</li> <li>○副教材の応用問題の解法を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○十分に数理的に考察する力を付けている。</li> <li>○応用問題の解法を自分の言葉で表現し、記述できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。</li> <li>○副教材の応用問題に積極的に取り組む。</li> </ul>
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な概念、原理・法則、用語・記などを理解している。</li> <li>○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○おおよその数理的に考察する力を付けている。</li> <li>○基本問題の解法を自分の言葉で表現し、記述できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書で学んだ範囲に対し、副教材で復習を行う。</li> <li>○提出課題等、計画的に行っている。</li> </ul>



ホ  
ッ  
プ

○数学用語を理解し、教師の説明を受けたり、例題を参考にしたりしながらの練習問題に取り組む。

○教師の説明を参考にし、公式成立の理由を理解しようと努める。

○板書を写すだけでなく、教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「数学Ⅰ Essence」 （東京書籍）

副教材 「CATCH 数学Ⅰ」 （東京書籍）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学 期	2章 2次関数 3節 2次関数のグラフと2次不等式 3章 三角比 1節 鋭角の三角比
2 学 期	3章 三角比 2節 三角比の応用 4章 集合と論証 1節 集合と論証
3 学 期	5章 データの分析 1節 データの整理と分析 2節 データの相関

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- 予習として、教科書を見て疑問点をチェックしておく。
- 積極的な態度で授業に臨み、授業で何がわかったかできるようになったかを復習するため、問題集を解く習慣をつける。
- 板書を写し取るだけでなく、自分が考えるときのポイントや疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫してノートを取る。
- 疑問点については、授業中に先生に質問する、あるいは休み時間などを利用して質問するなどして早めに解決する。
- 教科書や問題集の基本問題を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 小テスト</li> <li>• 定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 定期考査</li> <li>• レポート</li> <li>• 授業における発表や成果物</li> <li>• ノート</li> <li>• 長期休業中の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ノート</li> <li>• 振り返りシート、感想</li> <li>• レポート</li> <li>• 長期休業中の課題</li> </ul>
比重	4	4	2

数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。

目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種目の高度な技を身に付けたり、記録の更新に挑戦したり、仲間に感動を与えられる表現ができる。</li> <li>○ゲームのルールや役割に応じた練習方法を工夫し、全員で楽しむためのルールの調整ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の課題解決のために効果的な練習方法を実践することができる。</li> <li>○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を合理的・計画的に考察し、自分の考えを持つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイを大切にできる態度が定着している。</li> <li>○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、さらに他者への注意喚起を促す言動や行動により健康・安全を確保することができる。</li> </ul>
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種目の技を身に付けたり、記録に積極的に挑戦したり、感情を込めて表現したりすることができる。</li> <li>○ゲームのルールを理解し、教師や仲間からの助言をもとに、練習方法を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の状況に応じた適切な練習方法を実践することができる。</li> <li>○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を最小限の助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイをしようと心がけている。</li> <li>○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全を確保することができる。</li> </ul>

△  
ホップ

	<p>○各種目の技を身に付けようと努力したり、記録に挑戦したり、表現したりすることができる。</p> <p>○与えられたルールを概ね理解し、教師や仲間による見本や練習方法をもとに、体力の高め方を理解する。</p>	<p>○教師や仲間の助言があれば、自己の状況に応じた練習方法を実践することができる。</p> <p>○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を教師等の個別の解説や助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。</p>	<p>○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、教師からの助言があれば相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイに取り組む様子がみられる。</p> <p>○教師からの助言があれば、怪我等を回避するための、運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全に努める。</p>
--	--	--	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新高等保健体育」 （大修館書店）

副教材 「ステップアップ高校スポーツ」 （大修館書店）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<p>・体づくり運動 選択① 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道</p>
2 学期	<p>・体づくり運動 ・体育理論 選択② 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道 ・持久走</p>
3 学期	<p>・体づくり運動 ・持久走 選択③ 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道</p>

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にして、教師や仲間のアドバイスを聞いて、技能を高める習慣を身につけるようにする。
- ・実技教科のため、欠席をせずに、課題に粘り強く取り組む。
- ・仲間と協力して、練習やゲーム、発表会に取り組む。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルテスト</li> <li>・ルールテスト</li> <li>・体育理論テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシート、感想</li> </ul>
重みづけ	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>1</b>
	実技教科のため、基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
 ジャンプ	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について個人、またはグループで課題を設定し考察することで理解を深めることができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について個人、またはグループで課題を設定し考察することで理解を深めることができる。	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について課題を発見し、健康に過ごすための方法を、自ら思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について理解し、自分の考えを持つことができる。	○生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組むことができている。 ○健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組むことができている。
 ステップ	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について理解することができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について理解することができる。	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について課題を発見し、健康に過ごすための方法を、最小限の助言によって、思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について教師の解説や助言により理解し、自分なりの考えを持つことができる。	○生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。 ○健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

ホップ

	<p>○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について教師の解説や助言により理解することができる。</p> <p>○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について教師の解説や助言により理解することができる。</p>	<p>○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について課題を発見し、健康に過ごすための方法を、教師等の助言があれば、思考し判断するとともに、それらを表現することができる。</p> <p>○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について教師の解説や助言により理解し、自分なりの考えを持つことができる。</p>	<p>○生涯を通じる健康についての学習に教師からの助言があれば、取り組もうとしている。</p> <p>○健康を支える環境づくりについての学習に教師からの助言があれば、取り組もうとしている。</p>
--	---	---	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

- 教科書 「新高等保健体育」（大修館書店）  
副教材 「新高等保健体育ノート」（大修館書店）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容			
第3章 生涯を通じる健康			
1 学期	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">                     ① 思春期と健康 ② 性意識の変化と性行動の選択 ③ 結婚生活と健康 ④ 妊娠・出産と健康                 </td> <td style="width: 50%;">                     ⑤ 家族計画 ⑥ 加齢と健康 ⑦ 高齢社会に対応した取り組み                 </td> </tr> </table>	① 思春期と健康 ② 性意識の変化と性行動の選択 ③ 結婚生活と健康 ④ 妊娠・出産と健康	⑤ 家族計画 ⑥ 加齢と健康 ⑦ 高齢社会に対応した取り組み
① 思春期と健康 ② 性意識の変化と性行動の選択 ③ 結婚生活と健康 ④ 妊娠・出産と健康	⑤ 家族計画 ⑥ 加齢と健康 ⑦ 高齢社会に対応した取り組み		
第3章 生涯を通じる健康 第4章 健康を支える環境づくり			
2 学期	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">                     ⑧ 働くことと健康 ⑨ 労働災害の防止 ⑩ 働く人の健康づくり ⑪ 大気汚染と健康 ⑫ 水質汚濁・土壌汚染と健康                 </td> <td style="width: 50%;">                     ⑬ 健康被害を防ぐための環境対策 ⑭ 環境衛生に関わる活動 ⑮ 食品の安全性と健康 ⑯ 食品の安全性を確保する取り組み                 </td> </tr> </table>	⑧ 働くことと健康 ⑨ 労働災害の防止 ⑩ 働く人の健康づくり ⑪ 大気汚染と健康 ⑫ 水質汚濁・土壌汚染と健康	⑬ 健康被害を防ぐための環境対策 ⑭ 環境衛生に関わる活動 ⑮ 食品の安全性と健康 ⑯ 食品の安全性を確保する取り組み
⑧ 働くことと健康 ⑨ 労働災害の防止 ⑩ 働く人の健康づくり ⑪ 大気汚染と健康 ⑫ 水質汚濁・土壌汚染と健康	⑬ 健康被害を防ぐための環境対策 ⑭ 環境衛生に関わる活動 ⑮ 食品の安全性と健康 ⑯ 食品の安全性を確保する取り組み		
第4章 健康を支える環境づくり			
3 学期	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">                     ⑰ 保健制度とその活用 ⑱ 医療制度とその活用 ⑲ 医薬品の制度とその活用                 </td> <td style="width: 50%;">                     ⑳ 様々な保健活動や対策 ㉑ 誰もが健康に過ごせる社会にむけた環境づくり                 </td> </tr> </table>	⑰ 保健制度とその活用 ⑱ 医療制度とその活用 ⑲ 医薬品の制度とその活用	⑳ 様々な保健活動や対策 ㉑ 誰もが健康に過ごせる社会にむけた環境づくり
⑰ 保健制度とその活用 ⑱ 医療制度とその活用 ⑲ 医薬品の制度とその活用	⑳ 様々な保健活動や対策 ㉑ 誰もが健康に過ごせる社会にむけた環境づくり		

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・実生活に結びつけて、それぞれのテーマを学習する。
- ・グループ学習等を通して、他者とのコミュニケーションを図り、知識を定着させる。
- ・ワークシートやノートを活用して、用語の理解や発問に対して答えられるようにする。
- ・教師のアドバイスを聞いて、課題に粘り強く取り組む。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業における発表や成果物</li> <li>・ノート</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシート、感想</li> <li>・ノート</li> <li>・定期考査</li> </ul>
重みづけ	<b>2</b>	:	<b>1</b>
	保健の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

**目 標**

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考え方を的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。**(知識・技能)**
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。**(思考・判断・表現)**
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**(学びに向かう力・人間性等)**

**■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）**

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長の プロセス	ジャンプ	○教科書で扱われる英単語や文法事項について理解を深めている。 ○教科書で扱われる英単語や文法事項等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
	ステップ	○教科書で扱われる英単語や文法事項を理解している。 ○教科書で扱われる英単語や文法事項等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、活用できる技能を身に付けている。	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる。	○外国語の背景にある文化を理解し、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
	ホップ	○教科書で扱われる英単語や文法事項について教師等の助力があればおおむね理解できる。 ○教科書で扱われる英単語や文法事項等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、教師等の助力があればおおむね活用できる。	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを教師等の助力があればおおむね理解したり、伝えたりすることができる。	○外国語の背景にある文化に興味を持ち、英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

- 教科書 「All Aboard! English Communication II」東京書籍  
 副教材 「All Aboard! English Communication II ワークブック」東京書籍  
 「ビッグ・ディッパー高校英語」数研出版  
 「クラウン チャンクで英単語 Basic」三省堂

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1学期	Lesson 1 A Colorful Island ブラーノ島 ・イタリアのブラーノ島への旅行を報告する SNS を通して、その島の特色について学習する。（関係代名詞 what） Lesson 2 With the Beatles サムのリクエスト ・曲をリクエストしたラジオ番組の聴衆者とディスクジョッキーの対話を通して、世代を超えて人気のあるバンドについて学習する。（比較表限：more, the most）
2学期	Lesson 3 Wild Men ワイルドマンの世界 ・ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」についてのスピーチを通して、人間社会と自然について考える。（it の用法） Lesson 4 Little Hero ハチドリのしずく ・世界最小の鳥であるハチドリを紹介する記事とハチドリの物語を通して、不断の努力と不屈の心について考える。（間接疑問文）
3学期	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki 歌舞伎メイクの物語 ・日本の伝統文化である歌舞伎と隈取について学習する。

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読んでわからないところを見つけておく。
- ・自分の課題やできるようにになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・板書を写し取るだけでなく、自分の考えや疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、復習に役立つような工夫したノートづくりをする。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・英語で日記をつける、英語の歌を覚えて歌う、興味のある分野について英語の記事を読む等、授業以外でも英語を使う機会を作ってみる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・レポート</li> <li>・授業における発表や成果物</li> <li>・ノート</li> <li>・長期休業中の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート</li> <li>・振り返りシート、感想</li> <li>・レポート</li> <li>・長期休業中の課題</li> </ul>
重みづけ	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
	英語の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と表現力の向上を図るために、「知識・技能」「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的なことを理解し、生活の中で活かすことができる。</li> <li>○生活に係る技能が身に付き、適切に使うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○周りの人々と協働し、よりよい社会を目指し、地域社会で活動しようとする。</li> <li>○自分の家族・家庭や地域の生活に主体的に関わり、よりよく生活できるよう考え、行動できる。</li> </ul>
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的なことがおおむね理解でき、生活の中で活かすことができる。</li> <li>○保育や介護、衣食住に係る技能を学習したのと同じような場面であれば、適切に使うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提示された例を参考に、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の家族・家庭の生活に関わり、よりよく生活できるよう考え、行動しようとする。</li> <li>○課題等やるべきことを、期限までに自分でする。</li> </ul>
ホップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的なことを知り、教師等による解説や助力を頼りに、おおむね理解できる。</li> <li>○保育や介護、衣食住に係る技能を学習したのと同じような場面であれば、周囲の助言があれば適切に使うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提示された例を参考に、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、教師等による解説や助力を頼りに解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて表現できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題等やるべきことを、期限までに自分でやりきろうとする。</li> </ul>

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「図説 家庭基礎」 （実教出版）  
副教材 「図説家庭基礎 学習ノート」 （実教出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ 自分らしい生き方と家族 ・生涯発達する人生 ・家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題 衣生活をつくる ・人と衣服のかかわり ・小物製作
2 学期	子どもとかかわる ・子どもの誕生 高齢者とかかわる ・高齢社会に生きる 社会とかかわる ・共に生きるために 食生活をつくる ・私たちの食生活と健康
3 学期	食生活をつくる ・調理実習 住生活をつくる ・人と住まいのかかわり 経済的に自立する ・長期的な経済計画を立てる 消費行動を考える ・契約と主体的な消費行動 ・持続可能な社会をめざす取り組み

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業で学ぶ知識や技術を自分の生活に活かせるように、常に自分自身の生活を振り返り課題を見つけながら学習する。
- ・作品製作やレポートには計画的に取り組み、期限内に必ず提出する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や作品 ・ノート ・長期休業中の課題 (ホームプロジェクト)	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・実習態度 ・長期休業中の課題 (ホームプロジェクト)
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会福祉の向上に必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会福祉において体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。  
(知識及び技術)
- (2) 社会福祉の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長の プロセス	ジャンプ	○社会福祉に関する基礎的な内容を理解し、ペーパーテストにおいて80%程度正答することができる	○レポートにおいて、授業で学んだ社会福祉に関する知識を活かすとともに、関連する動画や資料を見て自分の考えを明らかにした文章を書くことができる	○板書された内容を授業プリントに正しく写すとともに、口頭での説明も欄外に記載することができる ○授業振り返りシートに、授業内容の要点をまとめるとともに、学習課題に対する学びを記述することができる。加えて、新たな課題を自分で立てることができる ○課題提出において、十分な内容で提出期日までに提出することができる
	ステップ	○社会福祉に関する基礎的な内容を理解し、ペーパーテストにおいて60%以上80%未満正答することができる	○レポートにおいて、授業で学んだ社会福祉に関する知識を活かすとともに、関連する動画や資料を見て文章を書くことができる	○板書された内容を授業プリントに正しく写すことができる ○授業振り返りシートに、授業内容の要点をまとめるとともに、学習課題に対する学びを記述することができる ○課題提出において、提出期日までに提出することができる
	ホップ	○社会福祉に関する基礎的な内容を理解し、ペーパーテストにおいて40%以上60%未満正答することができる	○レポートにおいて、授業で学んだ社会福祉に関する知識を活かした文章を書くことができる	○板書された内容を授業プリントに写すことができる ○授業振り返りシートに、授業内容の要点をまとめることができる ○課題提出において、提出期日を過ぎて提出することができる

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「社会福祉基礎」 （実教出版）

副教材 「社会福祉基礎 学習ノート」 （実教出版）、プリント、DVD 等

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	諸外国における社会福祉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉の歴史</li> <li>・イギリスにおける社会福祉の発展</li> <li>・アメリカにおける社会福祉の発展</li> <li>・北欧の社会福祉</li> <li>・ヨーロッパ大陸諸国の社会保障</li> <li>・アジアの少子高齢化と社会福祉の課題</li> </ul>
2 学期	日本における社会福祉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・近代社会福祉黎明期</li> <li>・社会事業の成立と発展</li> <li>・戦時厚生事業による福祉対策</li> <li>・戦後対策としての社会福祉の構築</li> <li>・高度経済成長期と社会保障・社会福祉の拡充</li> <li>・新世紀に向けた福祉改革と介護保険制度の導入</li> <li>・子ども・家庭支援のさらなる充実をめざして</li> <li>・障害福祉のさらなる充実をめざして</li> <li>・次代に向けた新たな社会福祉の挑戦</li> </ul>
3 学期	地域福祉の進展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療提供体制のしくみ</li> <li>・特別支援教育の制度</li> <li>・特別支援教育の実際</li> <li>・司法と福祉の連携</li> <li>・権利擁護と成年後見制度</li> <li>・つながりの再構築と社会福祉の役割</li> <li>・地域社会とボランティア</li> <li>・非営利組織の活動</li> <li>・福祉のまちづくりと地域社会</li> <li>・新時代に向けた社会福祉～地域共生社会の実現に向けて～</li> </ul>

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・教材だけでなく最新のデータや資料、DVD を活用し学習効果を高める
- ・ノートやレポート等は期限内に必ず提出する

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート</li> <li>・長期休業中の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業プリント</li> <li>・授業振り返りシート</li> <li>・長期休業中の課題</li> </ul>
重みづけ	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
	定期テスト及びレポートでの評価に重きを置くことで、介護福祉士としての必要な知識や思考する力に重きをおく		

目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、人間の尊厳を支え、自立支援を行うために必要な基礎的な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 介護について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。

(知識及び技術)

(2) 介護に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う (思考力、判断力、表現力)

(3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な介護の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか (どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
シヤンプ	<p>○高齢者や障害者に対して介護に関する基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けるとともに、介護の意義や役割について、十分に理解できる。</p> <p>○ペーパーテストにおいて80%程度正答することができる。</p>	<p>○介護に関する諸問題を発見し倫理観を踏まえた解決を目指し、多様な視点から思考を深め、介護活動の現状について多面的・多角的に考察することができる。(レポート)</p> <p>○介護に関する諸問題を発見し、倫理観を踏まえた科学的根拠に基づく解決方法を考え、論理的に相手に伝えることができる。また、諸問題の解決に向けて他者と議論を行うことができる。(グループワーク・発表)</p>	<p>○授業プリント及びノートを整理し、提出期限までに提出することができる。</p> <p>○自分の課題や学習の中の疑問点を見つけ、解決するために学習に取り組むことができる。また、その成果を提出することができる。(レポート)</p>
ステップ	<p>○高齢者や障害者に対して介護に関する基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けるとともに、介護の意義や役割について、おおむね理解できる。</p> <p>○ペーパーテストにおいて60%以上80%未満正答することができる。</p>	<p>○介護に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、介護活動の現状について多面的・多角的に考察することができる。(レポート)</p> <p>○介護に関する諸問題を発見し、倫理観を踏まえた科学的根拠に基づく解決方法を考え、論理的に相手に伝えることができる。(グループワーク・発表)</p>	<p>○授業プリント及びノートを整理し、提出期限までに提出することができる。</p> <p>○自分の課題や学習の中の疑問点を見つけ、解決するための学習方法を考えることができる。(レポート)</p>
ホップ	<p>○高齢者や障害者に対して介護に関する基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けるとともに、介護の意義や役割について理解できる。</p> <p>○ペーパーテストにおいて40%以上60%未満正答することができる。</p>	<p>○介護に関する諸問題の解決を目指し、介護活動の現状について考えることができる。(レポート)</p> <p>○介護に関する諸問題を発見し、解決方法を考えることができる。(グループワーク・発表)</p>	<p>○授業プリント及びノートをし、提出することができる。</p> <p>○自分の課題や学習の中の疑問点を見つけることができる。(レポート)</p>

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

- ・教科書 「介護福祉基礎」（実教出版）
- ・副教材 「介護福祉基礎 学習ノート」（実教出版）
- ・授業プリント

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護を必要とする人の生活環境</li> <li>・介護を必要とする人の背景と生活環境</li> <li>・介護サービスの利用方法</li> <li>・介護サービスの場の特性（在宅）</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅介護サービス</li> <li>・地域密着型サービス</li> <li>・介護サービスの場の特性（施設）</li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設サービス</li> <li>・障害者支援サービス</li> <li>・障害者支援サービスの実際</li> </ul>

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業ノート・授業プリントの整理を定期的に行う
- ・提出物は必ず期限内に提出する
- ・グループワーク等、積極的に参加し多角的・多面的に考察する

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
材料 評価 の	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート</li> <li>・発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ノート</li> <li>・授業プリント</li> <li>・課題提出</li> </ul>
重み づけ	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
	この科目の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技術」を重視して成績をつけます。		

目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、対人援助や福祉実践の場所での人間関係の構築に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対人援助について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。  
(知識及び技術)
- (2) 対人援助の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な対人援助に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか (どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○コミュニケーションの基本技術を理解し、ペーパーテストにおいて80%以上正答することができる。	○他者に関心を持ち、相手の立場や考えを尊重し、想像することで適切な関わりができる。 ○対人援助や人間関係の構築のためのコミュニケーションの基本技術を身につけ、福祉実践の場におけるコミュニケーション方法を説明し、実践できる。	○演習を通じて福祉サービス利用者を知り、学んだことや気づいたことをノートやワークシートに記入する。 (職業人として)
ステップ	○コミュニケーションの基本技術を理解し、ペーパーテストにおいて60%以上80%未満正答することができる。	○他者に関心を持ち、相手の立場や考えに応じた、適切な関わりができる。 ○対人援助や人間関係の構築のためのコミュニケーションの基本技術を身につけ、コミュニケーション方法を説明し、実践できる。	○演習を通じて他者を知り、学んだことや気づいたことをノートやワークシートに記入する。 (他者を理解)
ホップ	○コミュニケーションの基本技術を理解し、ペーパーテストにおいて40%以上60%未満正答することができる。	○他者に適切な関わりができる。 ○対人援助や人間関係の構築のためのコミュニケーションの基本技術について説明できる。	○演習を通じて自分自身を知り、学んだことや気づいたことをノートやワークシートに記入する。 (自分を理解)

成長のプロセス

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「コミュニケーション技術」（実教出版）

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	サービス利用者や家族との関係づくり サービス利用者に応じたコミュニケーション ・ 障害者とのコミュニケーション ・ 視覚障害・聴覚障害・言語障害・運動障害・知的障害
2 学期	サービス利用者に応じたコミュニケーション ・ 認知症 ・ 点字（特別非常勤講師）6 h ・ 盲学校見学
3 学期	記録 チームにおける連携 スーパービジョンの技法

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 大切なところに線を引き、わからない言葉は調べて、教科書やノートに書き込む
- ・ 人に興味を持つ
- ・ なんでだろ？なんでだろ？と考える、想像する
- ・ あ！そうか！と気づく

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 小テスト	・ ノート ・ 授業における発表や成果物 ・ 振り返りシート、感想 ・ レポート	・ ノート ・ 振り返りシート、感想 ・ レポート
重みづけ	1	2	1
	この科目の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技術」を重視して成績をつけます。		

目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 自立生活の支援の展開について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識・技術)
- (2) 自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識・技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<p>○各場面における生活支援技術を、他科目と結びつけながら、根拠に基づく支援方法を理解することができる。それらの知識をペーパーテストにおいて想起し80%以上記述することができる。</p> <p>○さまざまな場面において、利用者の潜在的な能力を引き出しながら、個性を踏まえて自立に向けた支援を安全・安楽に実践することができる。その支援技術を実技テストで80%以上発揮することができる。</p>	<p>○各場面における生活支援技術において、生活歴や背景、個性を尊重しながら、利用者の心身の状況に合わせた支援方法を考え発表することができる。</p> <p>○他者の支援を見たり利用者役になったりして多角的に学び、介助者の視点だけでなく利用者の視点からも学んだことを毎時の日誌に書くとともに、次回への課題を明確にして記入することができる。</p>	<p>○場面に応じた生活支援技術を自分の意見を交えて討論し考えることができる。今までに習った生活支援技術を活用しながら、潜在能力を引き出すための声掛けや環境づくりにも目を向け取り組むことができる。</p> <p>○授業中気づいたことや学んだことについてメモをとり、後から振り返って確認するとともに指導を受けたことを手順書に書き込んで自分自身のノートを作ることができる。</p>
ステップ	<p>○各場面における生活支援技術を、根拠に基づいて理解することができる。それらの知識をペーパーテストにおいて想起し60%以上80%未満記述することができる。</p> <p>○さまざまな場面において、自立に向けた支援を安全・安楽に実践することができる。その支援技術を実技テストで60%以上80%未満発揮することができる。</p>	<p>○各場面における生活支援技術において、利用者の心身の状況に合わせた支援方法を考え発表することができる。</p> <p>○他者の支援を見たり利用者役になったりして多角的に学び、介助者の視点だけでなく利用者の視点から学んだことも毎時の日誌に書くことができる。</p>	<p>○場面に応じた生活支援技術を他者の意見を聞きながら考えることができる。今までに習った生活支援技術を活用しながら、新たな技術を身に付けようと取り組むことができる。</p> <p>○授業中気づいたことや学んだことについてメモをとり、指導を受けたことを手順書に書き込んで記録に残すことができる。</p>
ホップ	<p>○各場面における生活支援技術の留意点を理解することができる。それらの知識をペーパーテストにおいて想起し40%程度記述することができる。</p> <p>○さまざまな場面において、自立に向けた支援を実践することができる。その支援技術を実技テストで40%以上60%未満発揮することができる。</p>	<p>○各場面における生活支援技術において、支援方法を考え発表することができる。</p> <p>○他者の支援を見たり利用者役になったりして多角的に学び、毎時の日誌を書くことができる。</p>	<p>○場面に応じた生活支援技術を習った通り実践することができる。新たな技術を身に付けようと取り組むことができる。</p> <p>○授業中気づいたことや学んだことについてメモをとり、記録に残すことができる。</p>

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

- 教科書 「生活支援技術」（実教出版）  
 副教材 「介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ」（中央法規出版）  
 「介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ」（中央法規出版）  
 「介護福祉士養成講座 15 医療的ケア」（中央法規出版）  
 プリント等

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>排泄介助 ポータブル、トイレ、尿器や差し込み便器自立に向けた生活支援 *中間考査 車いす移乗と着脱</li> <li>浴衣の着脱</li> <li>整容 爪切り、洗面、髭剃り、化粧</li> <li>入浴 家庭浴（片麻痺）、シャワー浴（洗身）、陰部洗浄、清拭 手浴、足浴、洗髪、ストレッチャー</li> <li>口腔ケア *講師4h</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>*中間考査 複合問題</li> <li>医療的ケア                             <ul style="list-style-type: none"> <li>医療的ケアの理解</li> <li>医療的ケアの理解</li> <li>高齢者及び障害者の経管栄養（胃ろう）</li> </ul> </li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療的ケア                             <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者及び障害者の経管栄養（鼻腔経管栄養）</li> </ul> </li> <li>自立に向けた生活支援                             <ul style="list-style-type: none"> <li>まとめ →非常勤講師（課題研究）2h</li> </ul> </li> </ul>

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- 授業前に手順書を作成し、介助方法の基本を理解しておく。授業で得た新たな学びを書き込んでいく。
- 授業中は自らが考えたこと、教わったことを分けてメモを取る。日誌はメモで振り返り、介助者側の視点だけでなく利用者役をして感じたことも含めて学びを記録する。
- 各班で介助方法を考える際は自分の意見を述べ、班員と討論して利用者の心身の状況に合わせた介助方法を積極的に考える。
- 授業後はチェックリストで技術の到達度を確認し、更に何をすればよいかを確認して次回の授業に向け目標を立てる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>実技テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実技テスト</li> <li>授業内容確認プリント</li> <li>授業内で支援方法考え発表</li> <li>毎時間の日誌</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身だしなみ</li> <li>技術到達確認用チェックリスト</li> <li>授業中のメモ</li> <li>手順書への書き込み</li> </ul>
重みづけ	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
	この科目の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技術」を重視して成績をつけます。		

目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、介護過程に関する知識と技術を身につけ、その人らしい生活を支援する介護過程の展開に必要な資質・能力を養う。

- (1) 介護過程について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。  
(知識及び技術)
- (2) 介護過程の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえて科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 福祉の見方・考え方を働かせ健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、介護過程に適切な展開に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○介護過程の意義や個別ケアにおける位置づけを理解できる。</li> <li>○必要な知識・技術を活用して一連のプロセスにおいて適切な内容で介護過程の展開ができる。</li> <li>○確認テストにおいて 80%程度の正答率である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別ケアを前提に自立支援に向けた介護過程の展開を考え、必要な根拠をもとに記述できる。</li> <li>○プレゼンテーションソフトや記録物を活用して自らが考えた介護過程を根拠を踏まえてわかりやすく他者に伝えるように説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提出物は、自らの意見を踏まえた上でよく考え内容で期日を守って提出することができる。</li> </ul>
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○介護過程の意義を理解できる。</li> <li>○必要な知識・技術を活用して一連のプロセスに従って介護過程が展開できる。</li> <li>○確認テストにおいて 60%程度の正答率である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別ケアを前提に介護過程の展開を考え、必要な根拠をもとに記述できる。</li> <li>○プレゼンテーションソフトや記録物を活用して自らが考えた介護過程をわかりやすく他者に伝えるように説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提出物は、よく考えた内容で期日を守って提出することができる。</li> </ul>
ホップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○介護過程の役割を理解する。</li> <li>○介護過程が展開できる。</li> <li>○確認テストにおいて 40%程度の回答率である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○介護過程の展開を考え記述できる。</li> <li>○プレゼンテーションソフトや記録物を活用して自らが考えた介護過程を説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提出物を期日を守って提出できる。</li> </ul>

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「介護過程」 （実教出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	介護過程がめざすもの ・介護過程の意義と目的 介護過程の展開 ・情報収集とアセスメント ・生活課題と目標の設定
2 学期	介護過程の展開 ・介護計画の立案  （実習終了後） 介護過程の実際 ・介護実習Ⅱにおける介護過程の展開の振り返り
3 学期	介護過程の展開 ・介護計画の実施 ・介護過程のモニタリング・評価

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・福祉科目の他の授業内容を復習し、基礎・基本的な知識・技術を身につけておく。
- ・配布されるプリントや資料をきちんとファイリングし、整理しておく。これがポートフォリオになり、知識・技術の積み重ねに繋がる。
- ・幅の広い知識と自らの課題発見力が必要である。常に自分を顧みたり、資料を読んだりして、自分の意見を整理する。
- ・学びをアウトプットするときに、どのようにしたら他者がわかりやすいかを常に考えてレポート等をまとめる。
- ・確認テスト（小テスト）も重要だが、課題を期日に提出することや課題に対して真摯に向き合い、真剣に取り組むことが求められる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・確認テスト（単元終了時）	・レポートや課題 ・プレゼンテーション	・ファイル ・振り返りシート、感想 ・レポート ・課題提出状況 ・プレゼンテーション資料
重みづけ	1	2	1
	この科目における知識・技術は他の科目での習得していることを前提として、それらを踏まえて活用できることが求められるので上記の通りの重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉に関する他の科目で学んだ知識と技術を統合し、課題解決に必要な資質・能力を身に付ける。

- (1) 課題解決に向けて、他の科目で学んだ知識と技術を関連させながら体系的・系統的に理解するとともに、実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身に付ける。(知識及び技術)
- (2) 課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえて解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 福祉の見方・考え方を働かせ、健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長の プロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実習施設のそれぞれの役割や根拠法を理解し、その施設の意義を理解できる。</li> <li>○実習前後の課題を自らの考えを踏まえた上で記述することができる。</li> <li>○ペーパーテストにおいて80%程度の記述ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実習前後の課題や学びを実習施設の意義や役割を踏まえた上で、自らの考えを取り入れ記述することができる。</li> <li>○プレゼンテーションソフトを活用し実習で得た学びや課題と結果、経験を自らの考えと実習施設の基礎的知識を踏まえた上で他者にわかりやすく伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○配属された施設に興味を持ち実習前後の自らの課題を明確にし、解決に向けて積極的に取り組むことができる。また、自己を振り返り今後の課題を明確にできる。提出物は、自らの意見を踏まえた上でよく考え内容で期日を守って提出することができる。</li> </ul>
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実習施設のそれぞれの役割や根拠法を理解してできる。</li> <li>○実習前後の課題を記述することができる。</li> <li>○ペーパーテストにおいて60%程度の記述ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実習前後の課題や学びを実習施設の意義や役割を踏まえた上で記述することができる。</li> <li>○プレゼンテーションソフトを活用し実習で得た学びや課題と結果、経験を自らの考えを踏まえた上で他者にわかりやすく伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○配属された施設に興味を持ち、実習前後の自らの課題を明確にすることができる。</li> <li>○提出物は、よく考えた内容で期日を守って提出することができる。</li> </ul>
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実習施設のそれぞれの役割を理解できる。</li> <li>○ペーパーテストにおいて40%程度の記述ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実習前後の課題を実習施設の役割を踏まえた上で記述することができる。</li> <li>○プレゼンテーションソフトを活用し実習で得た経験をまとめて伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○配属された施設に興味を持つことができる。</li> <li>○提出物を期日を守って提出できる。</li> </ul>

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

副教材 「介護総合演習」 （中央法規出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	介護実習 2年障害者福祉施設実習事前学習・事後学習 ・実習施設の役割 ・実習内容の確認 ・実習の振り返りと今後の課題の明確化
2 学期	2年訪問介護実習事前学習・事後学習 ・実習施設の役割 ・実習内容の確認 ・実習の振り返りと今後の課題の明確化 2年入所施設実習事前学習・事後学習 ・実習施設の役割 ・実習内容の確認 ・実習の振り返りと今後の課題の明確化
3 学期	事例研究

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・福祉科目の他の授業内容を復習し、基礎・基本的な知識・技術を身につけておく。
- ・配布されるプリントや資料をきちんとファイリングし、整理しておく。これが、3年間を通してのポートフォリオになり、知識・技術の積み重ねに繋がる。
- ・幅の広い知識と自らの課題発見力が必要である。常に自分を顧みたり、資料を読んだりして、自分の意見を整理する。
- ・学びをアウトプットするときに、どのようにしたら他者がわかりやすいかを常に考えてレポート等をまとめる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・確認テスト（単元終了時）	・レポートや課題 ・プレゼンテーション	・振り返りシート、感想 ・レポート ・課題提出状況 ・プレゼンテーション資料
重みづけ	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
	この科目における知識・技術は他の科目での習得していることを前提として、それらを踏まえて活用できることが求められるので、上記の重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、根拠に基づいた介護及び支援を実践するために必要な資質・能力を身に付ける。

- (1) 介護及び支援の実践について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。  
(知識及び技術)
- (2) 介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 地域における継続した生活の支援を行うため、自ら学び、介護及び支援の適切な実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実習施設の役割や根拠法を踏まえたうえで、実習記録が記述できている。</li> <li>○利用者理解と生活支援技術、それぞれに他科目での知識や技術を踏まえて実習記録が記述できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活支援技術と利用者理解それぞれに、考察を伴った実践が書かれている。また、その実践を振り返り、考察及び課題が書かれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○記録物は、よく考えられた内容で自分の考えを踏まえた上で記述し、時間と期日を守って提出することができる。</li> <li>○記録物を整理し、積極的に確認し全てにおいて漏れることなく記述することができる。</li> <li>○実習を全日、遅刻や早退、欠席なく出席することができる。</li> </ul>
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実習施設の役割や根拠法を踏まえたうえで、実習記録が記述できている。</li> <li>○他科目での知識や技術を踏まえて実習記録が記述できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的な実習内容とその内容への考察及び課題が書かれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○記録物は、自分の考えを踏まえた上で記述し、時間と期日を守って提出することができる。</li> <li>○記録物を整理し、全てにおいて漏れることなく記述することができる。</li> <li>○実習を全日、欠席なく出席することができる。</li> </ul>
ホップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実習記録が記述できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実習内容と感想が書かれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○記録物は、時間と期日を守って提出することができる。</li> <li>○記録物を整理することができる。</li> <li>○実習を全日程を出席することができる。</li> </ul>

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

副教材 「介護総合演習」（中央法規出版）  
 自作教材 介護実習記録簿

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	2年障害者福祉施設実習 ・就労支援施設等での実習（4日間）
2 学期	2年訪問介護実習 ・訪問介護事業所と通所介護施設での実習（4日間）  2年介護過程実習Ⅰ ・入所施設で、介護過程を展開する実習（14日間）
3 学期	

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・実習時間、記録物の提出など期日や時間を厳守する。
- ・介護実習は、原則全日出席で、欠席した場合は補習実習を行うので、欠席しないようにする。
- ・実習前によく考え目標を定め、目標を解決するために日々どのように取り組むかを考えて実習に臨む。
- ・実習中は、自らの課題解決のために、実習指導者や教員に質問する。
- ・自習後は、課題に対する結果や自らの考えを実習記録に記述する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・実習記録物の内容	・実習記録物の内容	・実習記録の提出状況 ・実習の出席状況 ・実習態度
重みづけ	1	2	2
	この科目における知識・技術は他の科目での習得していることを前提として、それらを実践でどう活用できるかが求められるので、上記の重みづけで総括し成績をつけます。		

目標

自立を尊重した生活を支援するために必要なころとからだの基礎的な知識を習得し、介護実践に適切に活用できる能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 「生活支援技術」との関連を図り、各器官の機能と基本的な生活行動との関係について理解を深め技能を身に付けるようにする。(知識及び技術)
- (2) 自立生活の支援に必要なころとからだのしくみに関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、福祉に携わる者として適切に判断するとともに、表現し創造的に解決する能力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、ころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識・技術	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
ジャンプ	○生活支援に必要なころとからだのしくみについて実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身に付けている。 ○ペーパーテストにおいて80%程度正答することができる。	○定期考査およびレポートにおいて、授業で学んだ内容に関する基礎的な知識を活かすとともに、関連する統計や時事を踏まえて、自分の考えを明らかにした文章を書くことができる。	○板書された内容を授業プリントに正しく写すとともに、口頭での説明も欄外に記載することができる。 ○授業振り返りシートに、授業内容の要点をまとめるとともに、学習課題に対する学びを記述することができる。加えて、新たな課題を自分で立てることができる。 ○課題提出において、十分な内容で提出期日までに提出することができる。
ステップ	○生活支援に必要なころとからだのしくみについて実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術をおおむね身に付けている。 ○ペーパーテストにおいて60%以上80%未満正答することができる。	○定期考査およびレポートにおいて、授業で学んだ内容に関する基礎的な知識を活かすとともに、関連する統計や時事を踏まえた文章を書くことができる。	○板書された内容を授業プリントに正しく写すことができる。 ○授業振り返りシートに、授業内容の要点をまとめるとともに、学習課題に対する学びを記述することができる。 ○課題提出において、提出期日までに提出することができる。
ホップ	○生活支援に必要なころとからだのしくみについて実践的・体験的な学習活動を通して、解説や助言により理解できる。 ○ペーパーテストにおいて40%以上60%未満正答することができる。	○定期考査およびレポートにおいて、授業で学んだ内容に関する基礎的な知識を活かした文章を書くことができる。	○板書された内容を授業プリントに写すことができる。 ○授業振り返りシートに、授業内容の要点をまとめることができる。 ○課題提出において、提出期日を過ぎて提出することができる。

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか(使用教材)

教科書 「こころとからだの理解」 (実教出版)  
副教材 「認知症の理解」(中央法規)

■ いつ、何を学ぶのか(年間の学習計画)

単元名・学習内容	
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症ケアの歴史と概念</li> <li>認知症高齢者の現状と施策</li> <li>認知症による症状</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>入浴、清潔に関するこころとからだのしくみ →非常勤講師(口腔ケア) 2h</li> </ul>
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の診断</li> <li>認知症の主な病気の特徴</li> <li>認知症の治療、予防</li> <li>認知症の人の特徴的な症状</li> </ul>
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症に伴う日常生活への影響</li> <li>地域におけるサポート体制</li> <li>家族への支援</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時、災害時に関するこころとからだのしくみ</li> <li>終末期に関するこころとからだのしくみ</li> </ul>

■ どのように学ぶのか(学び方のアドバイス)

- 授業ノート・授業プリントの整理を定期的に行う
- 提出物は必ず期限内に提出する
- グループワーク等、積極的に参加し多角的・多面的に考察する

■ 学んだことをどう評価するのか(学習評価)

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テスト</li> <li>定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>レポート</li> <li>発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業ノート</li> <li>授業プリント</li> <li>課題提出</li> </ul>
重みづけ	2	1	1
	この科目の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技術」を重視して成績をつけます。		

目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、情報及び福祉分野における情報の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 情報及び福祉分野における情報の活用に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。(知識及び技術)
- (2) 情報及び福祉分野における情報の活用に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、情報及び福祉分野における情報の活用について主体的かつ協働的に取り組み態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報社会における問題や課題を正しく理解し、その解決策を自分なりに工夫することができる。</li> <li>○情報セキュリティの確保に向けて、目的に応じた適切な方法を選択することができる。</li> <li>○自分の意見や考えを、情報機器を活用して視覚的にわかりやすく伝えることができる。</li> <li>○問題解決の手順を論理的に考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報社会に主体的に参画しようとしている。</li> <li>○情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。</li> <li>○よりよいコミュニケーションを行うために、自らの取り組みを評価・改善できる。</li> <li>○問題解決に情報機器を積極的に活用し、自ら結果を振り返って改善しようとしている。</li> </ul>
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報社会と人間との関わりについて考え、情報と情報技術の活用の意義を理解している。</li> <li>○情報に関する法規や制度、情報セキュリティとは何か、どのようなものであるかを理解している。</li> <li>○情報デザインの考え方について、十分に理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切に活用している。</li> <li>○情報モラルに配慮して、よりよいコミュニケーションを行おうとしている。</li> <li>○情報伝達のために、コンテンツ制作の個人技術を高めようとしている。</li> </ul>
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報化が進展する社会の特質について説明することができる。</li> <li>○情報に関する法規や制度、情報セキュリティなどの基本的なものを暗記している。</li> <li>○身近で具体的な情報デザインの例を基に、情報機器を操作する技術を身につけている。</li> <li>○関数の定義・使用により、プログラムの構造を整理する技術を身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報の特性を活用した事例と、それによって生じる事例を挙げることができる。</li> <li>○情報セキュリティの脅威に対する対策について、説明することができる。</li> <li>○報告者やレポートの目的に対して、体裁を考え、わかりやすい資料を作成し報告できる。</li> </ul>

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

副教材 30時間でマスターWord&Excel2019

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容		
1 学期	第1章 情報化の進展と生活産業 1 情報化の進展と社会 2 生活産業における情報化の進展	第2章 情報モラルとセキュリティ 1 ネットワーク社会の危険性 2 情報モラルとマナー 3 セキュリティ管理
2 学期	第3章 福祉分野における情報活用 1 福祉分野における情報活用の意義 2 福祉サービスにおける情報機器活用の実例 3 福祉分野における個人情報の管理	第4章 情報機器のしくみ 1 コンピュータのしくみ 2 ハードウェア 3 ソフトウェア 第5章 情報通信ネットワーク 1 情報通信ネットワークのしくみ 2 通信ネットワークの利用
3 学期	第6章 情報の処理・分析・発信 1 日本語ワードプロセッサの利用 2 表計算ソフトの利用 3 画像処理ソフトの利用 4 プレゼンテーションソフトの利用 5 Web ページの作成ソフトの利用	第7章 ICT を活用した自立生活支援 1 ICT の利活用の意義 2 自立生活支援へのICT の利活用

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ソフトウェアやインターネットなどを活用して、問題や課題と向き合う。
- ・情報機器の仕組みを理解して積極的に活用し、生活の中で利用できる操作や技術を身につける。
- ・仲間やグループで話し合いや意見交換を行い、自身の考えと他者の考えを比較・検討する態度を持つ。
- ・新聞やインターネットなどのメディアに積極的にふれ、社会事象に興味・関心を持つ。
- ・日常生活において、個人情報やセキュリティに対して注意深く考える習慣を持つ。
- ・色々な場面の小さなことでも、創造力を生かした発想や論理的に物事を考える習慣を大切にする。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、提出期限を守る。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> <li>・機器操作のテスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・レポート</li> <li>・授業における発表や成果物</li> <li>・学習ノート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノート</li> <li>・振り返りシート、感想</li> <li>・レポート</li> <li>・機器操作への取り組み</li> </ul>
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

2年 組 番	氏名
--------	----